

岐阜県立吉城高等学校

学 校 長 下平 貴昭

学校住所 飛騨市古川町上気多 1987-2 電話 0577-73-4555

- 1 会議の名称 岐阜県立吉城高等学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-------|--------|--------------|
| 評 議 員 | 井端 浩二 | 井端カメラ |
| | 沼田 幸一 | 卒業生の保護者 |
| | 村坂 壽紀 | 飛騨古川青年会議所理事長 |
| | 山川 美奈子 | 主婦 |
| | 吉野 弘子 | 吉城福祉会評議員 |
| 育友会長 | 瀧本 勝 | |
| 学 校 | 下平 貴昭 | 校長 |
| | 滝村 昌也 | 教頭 |
| | 西尾 陽子 | 学校事務主幹兼事務長 |
| | 川上 齊 | 教務主任 |
| | 高ノ山 裕一 | 生徒指導主事 |
| | 藤守 学 | 進路指導主事 |
| | 鈴木 泰輔 | キャリア推進部長 |
- （委員名は五十音順）
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援、協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成28年1月29日（金）14:30～16:45 吉城高等学校会議室
評議員5人、育友会長及び学校側7人が出席
- 5 会議の概要

テーマ 吉城高等学校の今年度の取組と来年度の課題について

（授業参観ののち、キャリア推進部長が「吉高 地域キラメキプロジェクト」（YCK プロジェクト）について報告した。さらに教務部、生徒指導部、進路指導部から本年度の取組、来年度の課題等を説明した。）

- 意見1 新聞記事等で YCK プロジェクトをはじめ吉城高校生のすばらしい活躍が報じられている。地元を愛する子たちの育成はとても大切であり、地元のことをもっと学べるような勉強会が地域として必要である。
- 意見2 地域の祭への子どもの参加は、小～中学生で終わるため高校生の活躍の場がない。参加できる機会を考え、地元愛へつなげる環境づくりが必要である。
- 意見3 YCKプロジェクトのことを中学生の親に聞かせたい。高校の活動が外部に届いていないため、間違った風評を気にして吉城高校の教育を受けられない子たちがいることは非常にもったいない。

- 意見 4 現代フォーラムで意見を述べた生徒たちは、地域とのつながりについてみんな自分のこととして調べて実践していた。これは学習の動機付けにもなっているようである。学校だけでなく地域の諸団体を利用することで、情報収集や活動の場をさらに広げることができるとうい。
- 意見 5 地域で吉城高校に対して何か寄与したいと思っている人たちがいる。そういう人たちが掘り起こして活動につなげるとよい。
- 意見 6 大学入試の改革が進むが、吉城高校として対策はあるのか。
- 学 校 思考力、問題解決能力が問われてくる。YCK プロジェクトや現代フォーラム等の取組がまさにそれである。ただし、改革の具体はまだ見えないので注視していく。
- 学 校 岐阜県英語教育イノベーション戦略事業の飛騨地区拠点校となり、英語による論理的思考力の強化や表現力の向上にも取り組んでいる。
- 意見 7 ALT はいないのか。
- 学 校 配置校が減らされている。県へは常に働きかけている。飛騨市が雇用する小中学校配置の ALT を使うことは許されていない。
- 意見 8 小さい頃から地元のイベントに参加するなど、体験が必要である。祭の奉仕など有無を言わせない強制参加も長い目で見ればとてもよい。いつかよみがえりこの地域に戻りたいと思ってくれる。
- 意見 9 育友会による就職希望者の面接練習では、参加した保護者にとって高校生の生の考えを聞けるなどプラスになることがとても多かった。保護者が学校行事等に参加できる機会について、情報が確実に親まで届くよう発信してほしい。
- 意見 10 育友会は文化祭にバザーで参加しているが、他団体との交流はない。和光園などの招待もあるのならば積極的にその場で交流したい。吉城高校関連団体の輪が広がっていくように考えていきたい。
- 意見 11 文化祭は一般公開しないのか。本校を知ってもらう良い機会である。平日では親も来にくい。
- 学 校 完全ではないが、和光園や保育園、卒業生、保護者、近隣地域の方々には公開している。休日開催では想定される諸問題もある。文化祭に限定せず、休日に吉城高校を知ってもらうイベントを開催することは考えられる。
- 意見 12 もし地域から高校がなくなればますます地域自体が廃れていく。吉城高校、飛騨神岡高校は飛騨市になくてはならないものである。

6 会議のまとめ

本校の取組を十分に理解していただけた。
課題として、特に地域とのつながりについて適切な御助言をいただいている。ぜひ今後
に生かしたい。